

デュオドーパ配合経腸用液

【この薬は？】

販売名	デュオドーパ配合経腸用液 DUODOPA enteral combination solution
一般名	レボドパ・カルビドパ水和物 Levodopa・Carbidopa Hydrate
含有量	1カセット中レボドパ2000mg、カルビドパ水和物500mg (カルビドパとして463mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗パーキンソン剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、抗パーキンソン剤（レボドパ）とレボドパの脱炭酸を防ぎ、レボドパを脳内に到達しやすくする成分（カルビドパ水和物）の2種類を含んでいます。
- ・レボドパは脳内でドパミンに変化し、脳内で不足しているドパミンを補うことで、パーキンソン病の症状である手足のふるえ、筋肉のこわばり、動作が遅くなる、歩行障害などを改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off 現象）の改善

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに使用し続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・閉塞隅角緑内障の人
- ・過去にデュオドーパ配合経腸用液に含まれる成分で過敏症のあった人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使用する前に医師または薬剤師にその旨を教えてください。

- ・肝臓または腎臓に障害のある人
- ・胃潰瘍、十二指腸潰瘍のある人、または過去にこれらの症状があった人
- ・心臓に重篤な疾患のある人、または過去にそのような症状があった人
- ・肺に疾患のある人、気管支喘息または内分泌系疾患のある人
- ・慢性開放隅角緑内障の人
- ・自殺したいと強く思うなどの精神症状がある人、または過去にそのような精神症状があった人
- ・糖尿病の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の使用量は、次のとおりです。

	朝の投与	持続投与	追加投与 (1回あたり)
初回量	この薬を使用し始める前に飲んでいた 経口レボドパ含有製剤の使用量を目安に決定します。		
通常量	5～10mL	2～6mL/時間	0.5～2.0mL (1回1mLから 開始します)
最大量	15mL	10mL/時間	-
	1日総投与量の上限は100mLです。		
回数	朝の投与として10～30分かけて投与したあと、起きている 時間(最大16時間)持続的にポンプから投与します。		

- ・1日16時間を超えて投与しないでください。
- ・この薬の投与終了後の夜間および就寝後に症状の管理が必要な場合は、経口レボドパ・カルビドパ製剤が用いられます。
- ・追加投与を行う際は、前回の追加投与から2時間以上あけて使用してください。
- ・チューブの中を薬で満たすために、この薬を鼻から投与するときは初めの日に5mLを、胃瘻から投与するときは毎日3mLを、それぞれ朝の使用量に足して使用します。

●どのように使用するか？

- ・この薬を開始するときは、原則として、入院して十分な観察を行い、あなたの症状にあった適切な使用量を決定します。
- ・この薬は専用のポンプ（CADD-Legacy 1400 ポンプ）およびチューブなど（アッヴィ PEG キットとアッヴィ J チューブ、あるいはアッヴィ PEG キットと L-ドパ持続経腸療法用 J チューブ）と組み合わせて使用するため、ポンプおよびチューブなどの専用機器の説明書などをよく読んで使用してください。
- ・ポンプの誤作動などにより投与量が多くなりすぎたり、足らなくなったりしてしまうことがあるので、ポンプなどの操作を十分に習得してから使用してください。
- ・胃瘻を造る前に、この薬の使用が適合することを確認するため、少しの間だけ専用の経鼻空腸内投与用チューブ（アッヴィ NJ チューブ）を使用してこの薬を鼻から空腸内に直接投与することがあります。
- ・使用を始める 20 分前に冷蔵庫と外箱からカセットを取り出してください。
- ・アッヴィ J チューブ、L-ドパ持続経腸療法用 J チューブまたはアッヴィ NJ チューブとカセットのチューブが正しく接続されていることを確認して使用してください。
- ・使用中、薬の効き目が突然なくなったと感じたときは、チューブがしっかりと接続されているか、チューブが曲がったり詰まったりしていないか、ポンプが正常に動いているかを確認してください。
- ・一時的に投与をとめる場合や、ポンプの故障や誤作動などの場合に備えて、経口レボドパ・カルビドパ製剤を常に用意してください。
- ・1 日の投与が終わったカセットは、中身が残っていても再び使わずに捨ててください。
- ・1 日の投与が終わったら、アッヴィ J チューブまたは L-ドパ持続経腸療法用 J チューブを毎日フラッシング（洗浄）してください。
- ・この薬の投与が終わった夜間および寝ている間にパーキンソン病の症状を管理する必要があるときは、経口レボドパ・カルビドパ製剤を使うことがあります。
- ・前の日の朝の投与後 1 時間以内の薬の効果が不十分なときは、朝の投与量が調整されます。
- ・追加投与の頻度が 1 日 5 回を超える場合には、医師に相談してください。

●使い忘れた場合の対応

使い忘れに気付いたときから、朝の投与から開始してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常な不随意運動（意思に反して体が動く、手がふるえるなど）、混乱、不眠、吐き気、嘔吐（おうと）、不整脈などの症状があらわれる可能性があります。これらの症状があらわれた場合には、速やかに投与を中止しポンプを外し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・ニューロパチー（手足のしびれ、痛み、力が入らない、筋萎縮、手足のふるえ）があらわれることがあります。この薬の使用中にこのような症状があらわれた場合には速やかに医師に相談してください。
- ・この薬の急激な減量または中止により悪性症候群があらわれることがあります。

- この薬を減量または中止する場合には、少しずつ使用量を減らしていきます。
- ・チューブなどの医療機器や胃瘻を造ることに関連する胃石、腸閉塞（腸が詰まった状態）、胃瘻部位のびらん・潰瘍（かいよう）、術後創傷感染、腸出血、腸管虚血、腸管穿孔（腸に穴があいた状態）、腸重積（腸管に腸管が入り込み、腸が詰まった状態）、膵炎、腹膜炎、気腹（腹腔内に空気がたまった状態）、膿瘍（組織内に膿（うみ）がたまった状態）、敗血症、肺炎（飲食物、たんや唾液、胃液などが誤って気管に入ることによる誤嚥性肺炎を含む）があらわれることがあるため、腹痛、吐き気、嘔吐（おうと）などの症状があらわれた場合には、ただちに使用を中止して医師に相談してください。
 - ・閉塞隅角緑内障（目のかすみ、目の痛み、視力の低下、目の充血、視界の中に見づらい部分がある、霧がかかったような見え方、視野が欠けて狭くなる）のおそれがある人は、眼科検査が行われることがあります。
 - ・突発的睡眠（突然の耐えがたい眠気）や傾眠（刺激がないと眠ってしまう）、眼の調節障害、注意力・集中力・反射機能などの低下がおこることがありますので、この薬を使用中は自動車の運転など危険を伴う機械の操作はしないでください。
 - ・社会的に不利な結果を招くにもかかわらずギャンブルや過剰で無計画な買い物を繰り返す、性欲や食欲が病的に亢進するなど、衝動が抑えられない症状があらわれることがあります。また、この薬を治療に必要な量を超えて欲しくなる症状があらわれることがあります。患者さんや家族などの方は、医師からこれらについて理解できるまで説明を受けてください。また、これらの症状があらわれた場合には医師に相談してください。
 - ・妊娠または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
 - ・授乳中の人は、授乳を避けてください。
 - ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
幻覚 げんかく	実際には存在しないものを存在するかのよう感じる
錯乱 さくらん	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない
抑うつ よくうつ	気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、食欲不振、体がだるい

重大な副作用	主な自覚症状
胃潰瘍・十二指腸潰瘍の悪化 いかいよう・じゅうにしちょうかいようのあつか	吐き気、嘔吐(おうと)、吐いた物に血が混じる(赤色～茶褐色ときに黒色)、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
血小板減少症 けっしょうばんげんしょうしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
突発的睡眠 とっぱつてきすいみん	突然の耐えがたい眠気
悪性黒色腫 あくせいこくしょくしゅ	左右非対称で急に大きくなった腫瘍やあざ、またはほくろ、腫瘍から出血しやすい、急激に盛り上がったたり、潰瘍となることがある
閉塞隅角緑内障 へいそくぐうかくりよくないしょう	目の充血、目のかすみ、視力の低下、視界の中に見づらい部分がある、霧がかかったような見え方、目の痛み、視野が欠けて狭くなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	高熱、汗をかく、体のこわばり、体がだるい、出血が止まりにくい
頭部	ぼーっとする、実際には存在しないものを存在するかのようを感じる、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、めまい、突然の耐えがたい眠気
顔面	鼻血
眼	白目が黄色くなる、目の充血、目のかすみ、視力の低下、視界の中に見づらい部分がある、霧がかかったような見え方、目の痛み、視野が欠けて狭くなる
口や喉	話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる(赤色～茶褐色ときに黒色)、歯ぐきの出血
胸部	呼吸数が増える、息切れ
腹部	腹痛、胃がむかむかする、
手・足	手足のふるえ、脈が速くなる
皮膚	皮膚が黄色くなる、あおあざができる、左右非対称で急に大きくなった腫瘍やあざ、またはほくろ、腫瘍から出血しやすい、急激に盛り上がったたり、潰瘍となることがある
便	黒い便が出る
尿	尿の色が濃くなる
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

性状	白色～淡黄色のゲル状懸濁液
内容量	1 カセット中 100mL
形状・構造	薬液充填済みのポンプ装着型カセット 

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	レボドパ（日局）・カルビドパ水和物（日局）
添加物	カルメロースナトリウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・遮光、凍結を避けて2～8℃で保管してください（外箱に入れ冷蔵庫内で保管してください）。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：アッヴィ合同会社

(<http://www.abbvie.co.jp/>)

くすり相談室

フリーダイヤル：0120-587-874

受付時間：9時00分～17時30分

(土、日、祝日、その他の当社休業日を除く)